

# 基督教主義幼稚園の

## 教師に関する一考察

東洋英和短期大学 小林 恵子

目的・方法 教師が自己の職場でいかなることを求め悩んでいるかについて東京都の基督教幼稚園教師五八人を中心とし、参考として基督教の保育短大学生二二四人、基督教以外の三園の教師一四人を質問紙法により調査した。

期間 昭和三十四年二月～四月

結果 (1)教師になった動機として、「使命感」が一位で年令の多い人に%が高く、学生と基督教以外の教師では「子どもが好きだから」が一位になっている。(2)仕事についてやめたいは二〇才～三〇才の教師に一二%あり人間関係が主な原因となっている。(3)一般的な悩みとして約九〇%が感じており、①自己の研究の仕方、②保育上の問題、③時間不足、④職場での人間関係の順であげられているが他は比較的低い。(4)保育上の問題は年令的に差違があり、三一～五五才では①保育技術、②園の設備、③社会的問題で二〇～三〇才は①園児の取り扱い、②評価、③保育技術となり、全体として保育技術ではピアノの問題が五三%。園児の取り扱いは問題児の取り扱いが六四%。社会的問題としては、両親教育が七七%をしめている。なお、教育の理論上の悩みが最も低く教育心理が七五%をしめ、歴史・思想問題は〇である。(5)人間関係の問題では三一～五五才では、若い教師・園児の父母が一位で二〇～三〇才で一位園長、二位主任、三位園長夫人となっている。理由として①幼児教育に対し理

解がない。理論や方法に相違がある。責任感がない。②時間が守られない。誠意が足りない。自分の意見が強い。③個人的生活に干渉するなどがあげられ、このうち三一才以上の教師が主にさしているのは、責任感がない、誠意が足りないで、他は二〇才～三〇才の教師の意見が主となっている。(6)社会的な要求として研・講習会をひらく三四%、保育短大を四年制にする三二・二%、待遇の改善三二・二%とほぼ三分分され、卒業前の学生では短大の四年制要求が五〇%となっている。(7)教師の資質の要求には「信仰」が第一位であるが、学生基督教以外の教師では健康が一位である。全体としていづれの年代にも要求されているものは、健康、研究心、誠実、責任感、明朗、子ども好き、信仰、すなお、で保育技術は一〇%以下でやや低く、学校の成績がすぐれるは〇であり、教師としての要素にまず人間としてのよりよき要素が強く要求されているのが注目された。

## 幼稚園教育内容の指導に

### あたる保育者の実態について

大阪基督教短期大学 里深 祈恵子

調査の動機 幼稚園教育要領に示された保育内容の六領域が、相互に関連づけられながらどの領域もよく指導されることが望ましい。しかし、実際の保育に当っては、種々の条件や教師自身の問題などにより、必ずしも全領域がすべて好ましく指導されているとは言えない。ここでは直接保育に従事している教育者を対象としてこの問題の実態を知りたいと考えた。

(第一表)

年齢	20 ~ 29才	30 ~ 39才	40 ~ 49才	50 ~ 59才	60 ~ 69才	不明	計
人数	37	11	8	2	1	4	63

回答者63名のすべては現在保育に従事し  
組を担当しているものである

指導が困難である理由としては、上述の容易である場合の条件が充たされず、十分である場合、すなわち反対の立場にあるものがその困難性を述べている。  
その他、指導目標がはっきりしていない、との意見がごく僅かであるが見られるのも興味深い一面である。  
第二表でみる通り、六領域のうち、指導容易である順位は(1)健康 (2)絵画製作 (3)

調査の目的 現在の保育者は、教育内容として分類された六領域のいずれが指導しやすく、またよく出来ていると思うか。六領域の数値については指導がむずかしいと思っているか。それはなぜであるか。

調査の方法 質問紙法による。

現在幼稚園教育に従事している本短期大学の卒業生を対象に予備調査をおこない、その結果を教育内容の六領域に従って分類し、○または×印をもって解答してもらった。

調査の対象 上の第一、第二表の通りである。

調査の結果 指導が容易である理由としては、全領域にわたって(イ)環境、遊具、教材、参考資料に恵まれている。(ロ)研究会に出席したり、指導助言を受ける機会が比較的多い。がその主な点であり、健康・社会では、更に家庭の協力が得られるから、という条件があげられている。その他、自分がとくに興味をもち、また研究している面であるから、との意見も約五〇%みられる。

指導が容易であると思う者

(第二表)

指導がむずかしいと思う者

領域 保育 経験年数	健	社	自	言	音	絵
	康	会	然	語	楽	画
5年以下	68%	29%	64%	50%	54%	54%
10年以下	85	40	35	70	80	75
15年以下	60	20	40	60	60	100
20年以下						
20年以上	100	75	75	100	75	75
不明	83	67	67	67	17	50
全体として	76	38	54	62	60	65

領域 保育 経験年数	健	社	自	言	音	絵
	康	会	然	語	楽	画
25%	61%	32%	39%	32%	35%	
10	50	50	25	15	20	
40	80	40	40	40	0	
0	20	0	0	25	25	
17	33	34	34	83	50	
19	54	37	32	30	29	

六領域の指導の難易について 保育経験年数別にみたものである。

言語 (4)音楽リズム (5)自然  
(6)社会 となっている。  
保育経験年数別では、20年以上の者は、全領域にわたって多数が容易であるとの意見であり、15年~10年の者が、最も多く保育指導のむずかしさを述べている。  
保育指導をよりよく進めていくためには、やはり、環境整備の重要性が幼児教育の大切な要素であるということ、ここでははっきりと示されている。家庭との協力や教師自身の教育的な研究態度などが、環境にプラスされて、よりよき保育指導の効果が創り出されてくるのではないだろうかと考えさせられ、今後の研究へのあしかりとしたいと希っている。